

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	唐津市立大良小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育目標を念頭に、全職員が現状の課題をしっかりとらえて対応することができたために、校内評価及び学校関係者評価の最終評価において、A評価が9項目中7～8項目であった。</li> <li>他者との交流は、特設の時間だけでなく授業の中にも生かされてきており、各単元の達成度は向上している。そして、今後の課題を、意見の交流を深めさせたり、自分で疑問をもち他者とともに考えていく力の育成に見出すことができた。</li> <li>自己肯定感、自己有用感をさらに高めるために、点数や賞などを大切にしながらもそのみが自己を評価する指標ではなく、日々の積み重ねや苦手なことを何とか解決していくことに大きな価値があることに気付かせていく必要が出てきた。</li> <li>地域・家庭との強い結びつきは学校運営上とても大きな力となった。今後は児童の家庭での時間の過ごし方について協議を深めていく必要がある。</li> </ul>
2 学校教育目標	<p>心豊かで 自他ともに大切にし 共に学び合う たくましい子どもの育成</p> <p>～正しく、かしく、たくましく～</p>

3 本年度の重点目標	<p>○かしくい子ども よく見て、よく聴き、考えを持ち、伝え合う子</p>	<p>○自分も周りの人も大切に子ども よさを認め、思いやりと感謝の心をもつ子ども</p>	<p>○元気で落ちついた子ども 基本的な生活習慣が整い、元気で落ち着きのある子ども</p>	<p>→ 三方向から ← 三方向へ</p> <p>新たな活動に向かう 「心のパネ」</p> <p>※心のパネ…自己肯定感を土台に達成感や満足感のある活動を仕組み、それが次の新しい活動への興味・関心・指向性へとつながる心のはたらき</p>
------------	---	--	---	--

4 重点取組内容・成果指標

(1) 共通評価項目				中間評価		5 最終評価				主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
	取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●「唐津の学びスタイル」チェックシートにおけるA評価が5項目以上となるようにする。	・教職員間で「唐津の学びスタイル」チェックシートを共有する。 ・全職員で校内研修を推進し、全学年が年1回の研究授業と研究協議を実施する。							○学力向上対策コーディネーター(早瀬) ・研究主任(永田)
	○基礎基本の定着と主体的に学ぶ態度の育成	○「授業が分かりやすい」と感じる児童を90%以上にする。	・「考えを交流する時間」や「ふり返りタイム」を、毎日の授業の中に取り入れる。 ・個別最適・協同的な学びに生かすため、場面に応じてタブレット端末やICT機器を取り入れる。							○研究主任(永田) ・学力向上対策コーディネーター(早瀬)
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳の授業の中に、議論する活動を仕組み、道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童の割合を90%以上にする。	・道徳の授業を年1回以上保護者に公開し、保護者の意見及び感想を職員で共有し、取組を通信等で発信する。 ・人権集会を年5回以上開き、職員が輪番で「人権」「共生」「協力」等の話をする。							○道徳教育推進教師(中島) ・各学年担任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの予防、早期発見、適切対応、事後観察に努め、「学校が楽しい」と感じる児童が85%以上にする。	・各学年の発達段階に合わせた「いじめ」防止に関する授業を、1回以上行う。 ・学期に1回、教育相談週間に合わせて独自の「心のアンケート」をとり、担任や職員全体が関わって教育相談を行う。							○心ゆたか部(山下) ・教育相談(尾花)
	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	◎日々の授業や行事等の取組を通して、自分の成長を感じる児童を85%以上にする。	・郷土を愛する心を育てるため、地域のゲストティーチャーを迎えての活動を取り入れる。 ・読書活動の充実を図り、自らの将来に希望をもたせる。 ・「キャリアパスポート」を活用し、自分の成長の跡を振り返ることができるようにする。 ・各行事等に、出番・役割・責任・承認のある活動を取り入れる。							
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○「大好き良い子カード」の生活チェックの点数が90点以上の児童を80%以上にする。	・「大好き良い子カード」の自己評価などを参考に、月ごとに成長や高得点維持について賞賛していく。 ・家庭と連携し、ノーテレビノーゲームデーを毎月1回設定し、結果を育友会と共有する。							○生徒指導主任(高橋) ・体育主任(高木)
	○(学校独自重点取組・任意)	○児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。	・下校指導において、毎日全児童に交通安全に関する注意喚起を行う。 ・危険な事案や情報があれば、早急に公民館や育友会役員と情報共有をする。							○心ゆたか部(池田) ・登下校指導(高橋)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を全職員が遵守する。	・予定退勤時刻を明確にし、仕事の軽重を付けて業務に取り組む。 ・金曜日の定時退勤日を徹底するために、朝と退勤10分前に呼びかける。 ・提出期限がある業務に関しては、早めに担当者に伝え、余裕をもって取り組めるようにする。							○教頭(古賀) ・事務主事(山田)

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
	重点取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援学級及び個別の支援が必要な児童の理解と対応について、成果指標を達成した教師90%以上にする。	・月一回の児童理解協議会において、特別支援学級在籍児童及び個別の支援が必要な児童の実態把握と具体的支援について共通理解を図る。 ・特別支援教育の研修を、主に発達障害の理解と対応について、年3回以上実施する。 ・コグトレに取り組み、児童の認知能力の理解と把握に努める。							

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--